



遠藤 浩 議員

双葉郡 さらなる連携はどのように

町長／協議・勉強会で連携に努める

遠藤 ①町長は、「双葉地方が将来にわたる持続可能なまちづくりのためには、広域的な連携で、支え合っていく必要がある」と発言されていますが、具体的な連携・協力・行動とは。

②新駅設置の要望が出されていますが、町民の方から、広野駅は開発されず取り残されている。この声が多く出ています。こうした声を町長はどのように捉えていますか。

③双葉郡内各町村の職員は日々、激務をこなしており、こうした経験や見識は財産であり、連携強化や支え合う仕組みを構築するための、情報共有の必要性について町長の見解は。

口広場を整備し、今後は、駅構内のトイレ改修、駅舎の近代化や駅西口のロータリー整備に着手します。

広野駅整備を最重要施策と位置づけ、利便性やイメージの向上に努めていきます。

③復興関連事業として大型な事業を展開する中で、双葉郡八町村の若手職員間の定期的な勉強会を実施し、連携に努めています。

町長

①各町村の施策や資源を

②「未来のかけ橋」シェルター通路、駅東

教育行政

どのように運営していくのか

教育長／環境整備に全力で取り組む

北郷 東日本大震災と原発事故を経て、将来の広野町を担う子どもたちの教育環境は大きく変化しました。

2月13日、町教育の復興・創生に向けた非常に大切な時期に教育長に就任されましたが、どのような思いで町の教育行政を運営していくのかお尋ねします。

教育長

学校・家庭・地域が一体となり、豊かな学びの環境を創造し、美しい自然や温かな人間関係の中で、ふるさとの歴史・文化等を継承しながら、未来を切り拓く力を身につけることができる魅力ある教育の実現を目指し、将来を担う子どもたちや家族が、将来にわたり町内で生活していただけるよう、学校教育・社会教育の環境整備に全力で取り組んでいきます。

が、

JFAアカデミー

再校はいつになるのか

町長／方針は今年度中に

遠藤 広野中学校には震災以前、JFAアカデミー福島生徒が在学していましたが、原発事故の影響から、御殿場市に一時的に移転していましたが、JFAアカデミー福島校の再校はいつ頃となるのですか。

町長 本年7月のJヴィレッジの一部再開、翌年の全面再開を勘案しながら、関係機関で協議を行っており、日本サッカー協会より、今年度中に方針が示されることになっていきます。



JFAアカデミー入校式

スクールバス



スクールバス

平成30年度以降はどうなるのか

教育長／町民バス利用の通学形態準備を進める

北郷 震災以前のように入団で歩いて登下校できれば、体力の向上や成長を促すことになるのではなにかと思えますが、生活環境が変化し、スクールバスの運行は継続すべきだという保護者からの声も聞かれます。

平成30年度以降も継続されるのですか。

教育長 現在、ほとんどの町内からの通学で、徒歩での登校も一部で再開しています。

また、費用は国の交付金で賄っています。が、年々補助要件が厳しくなっているため、平成30年度は継続しますが、町民バスを利用した震災以前の通学形態への移行準備を進めていきます。

環境整備の具体的な進め方は

教育長／機能移転に支障がないよう進める

北郷 平成31年の4月から、現在小学校を校舎として、中学校は、本来の校舎に戻って勉強やスポーツに取り組んでいくことになりま。

そこで、中学校の環境整備を、どのように進めていく予定ですか。

教育長 現在、中学校舎の改修の調査を行っているところで、この調査結果に基づいて、ふたば未来学園高校の夏休み期間中に行える改修工事を行い、中学校機能移転に支障がないよう環境整備を進めていきたいと考えています。



広野中学校校舎

広野中学校

北郷 伯弘 議員